

# やつおもて

第11号 (2016年4月)  
編集発行：和田公民館  
協力：公民館運営推進委員  
電話：(45-1918)  
eメール:wada-k@ph-hamada.jp



～和田地区いろいろ見て歩く記～

さいた～



ちゅ～りっぷの

さいた～

はなが～



春がやって来ました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？今年の冬は暖冬で雪は少なかったようには思いますが、遅くまで寒さが続いてほんとに暖冬なの？と疑いたくなってしまいました。春本番、待ち遠しいですね！（つぬ）

【和田地区の歴史コーナー】今回は本郷の大墓について紹介します  
《本郷の大墓》

県道田所国府線と県道浜田作木線との交点近く、田所国府線沿いにあるのが大墓である。大字本郷1805番地湯浅温（あつし）（明治18年～昭和47年）の所有地「埋葬地反別四畝」がそれである。すぐそばに本郷庄屋の屋地がある。湯浅温の話によると、昔はもう少し広がったが一部を切り崩し水田にしているという。宅地及び道路用地としても削られているが、狭くなったのは1アール内外であろう。全面平坦地のほぼ中央に直径6メートル余り、高さ1メートル余りの円墳状の盛土墳があり、その中央にシイの古木がある。この木も根元から十数本に分岐していて、遠くからこんもりとした小さい森木に見える。

この盛土をめぐるように3、4ヶ所に宝篋（ほうきょう）印塔の頭部7、8個と五輪墓石の断片及び高さ40センチくらいの地蔵尊1体が置かれている。その崩壊程度から江戸時代初期のものと推定され、中世の墓地と見るのが妥当と考えられる。大墓と呼ばれていることからみても権力者の墓であったろう。かつて、この平地全体が墓地として使われていたらしい。南面の日当たりの良い場所で古墳時代の円墳とみるには、やや難点もあるが一応ここにあげておき今後の研究をまちたい。（旭町誌上巻より）

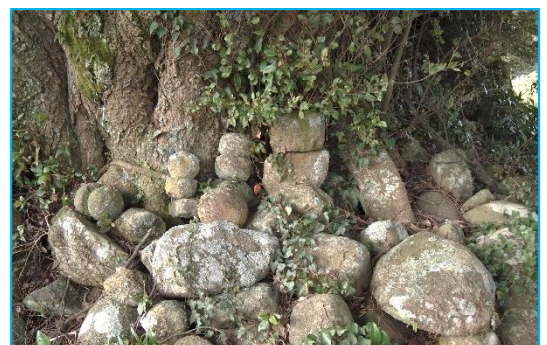
つぬです！



浜田市指定銘木スダジイの古木



大墓  
地蔵



シイの木の根元に置かれている宝篋（ほうきょう）印塔の頭部

続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです



# 六部墓(ろくぶはか)

—「防六をあおぎて」より—

その石碑が重富の町から柏尾谷へ行く途中を下った堂々谷川のほとりにひっそりと建っている。

六部とは、信心深い人々が神のご加護を願い日本の六十六ヶ所の霊場を廻り、法華経を書写して納めて歩く人々を云う。随分昔からあった訳だが、金と暇がなければ出来ない訳だ。ところが旅の途中で思わぬ事で旅の資金を失い経を納める目的が果た



せなくなってしまう人々が出てくる。芸の達人な者は芸をやり口をつなぐが、何も持たない、何も出来ない大部分の六部はやがて「誠の信念」も失い、人知れず亡くなった他の六部から金品をかすめるような困った者も出てくる。そうして乞食になり、物乞いをして露命をつなぎ、山野を歩き廻るようになる。拳句の果ては威しや追いはぎとなる者もある。が、そんな六部ばかりではなかった。中には金持ちの六部もいて道すがら「袖振り合うも他生の縁」と情を掛け合い路傍の堂の中に草をシトネとする友となり、同道している間に互いの

最期を頼み合う仲となる六部もいた。

一方が亡くなった時、金に余裕がある人は「その相手に弔いを」と思う。旅路の途中で亡くなった人に土地の人も同情して願主の思いも入れてねんごろに葬って墓を建てる。このようにして日本各地に六部の墓が残っているが、ほとんどが風雨にさらされ忘れ去られ様としている。その中で、この重富で亡くなった(江戸時代末期)六部はこの川の水を末期としたのでしよう。その折特に屋号湯船(現在山片さん宅)にお世話になったのです。

そのお礼にと願主が、六部が土産にしようとしていた長崎の「オランダ版木」を授けたのです。それは今、屋号大元尻(現在岩本さん宅)に伝わっています。このように墓を建てて貰える人は幸せです。そのほとんどは人知れず山野に屍をさらす事になる、そんな時代があったのです。(文・絵 佐々岡健次)



現在、堂々谷川のそばに建っている六部墓です。



命をかけたご加護旅…  
昔はそれ程神仏に頼ったんですね…



## ベンソン陽子の海外便り 第1回

私達が日本からアメリカに戻ってきてから3年がたちました。

やはり一番懐かしく感じるのは食べ物です。日本の食べ物はおいしい！

こちらでも手に入る食べ物はありますが、やはり品揃えが少ないのでどうしても日本から送ってもらうのが一番良いと実感します。ただ、アメリカにも沢山おいしい食べ物があります。今日は家族や友人が集まる時によく食べるものを紹介しますね。



### 感謝祭ディナー



アメリカの年中行事で一番豪華なのは感謝祭のディナーです。毎年11月の第4木曜日が感謝祭の祝日で、家族で集まってご飯を食べるのが習慣となっています。普通は七面鳥をオーブンで焼きますが、南部では油で揚げて食べます。野菜やデザートも沢山用意して、

数日残り物を食べるのも昔からの習慣です。ベンソン家では、おじいちゃんが毎年七面鳥を焼いてくれます。彼の隠し味はオレンジジュース。オーブンに入れると肉がどうしても乾いてしまうので、それを防ぐために毎時間オレンジジュースを吹きかけます。七面鳥は料理するのに半日掛りますが、出来上がった時の味は最高です。



### 独立記念日のバーベキュー



毎年7月4日はアメリカの独立記念日。それに伴い家族でバーベキューをするのが習慣です。バーベキューはリブやステーキ、チキンを沢山焼いて、バーベキューソースをたっぷりつけて食べます。ソースもいろいろあり、蜂蜜入り、マスタードと大根を混ぜた甘酸っぱいゴールドソース（ベンソン家で人気です）、ざくろ入りの黒いソースなどよりどりみどりで、アメリカではなぜかバーベキューは「男の料理」となっています。なのでほぼどこの家でも男性が肉を焼きます。ベンソン家も例外ではなく、ダリルお父さんがいつも腕を振るいます。先日おじゃました友達の家でもやはり、男性陣が肉を外で焼き、女性陣はキッチンで副菜を作る、という見慣れた光景でした。アメリカは冬でも暖かい気候のところが多いのでバーベキューは一年中食べることもできます。次回はクリスマスやお正月の食べ物についてお伝えします。（文・写真 ベンソン塚崎陽子）



今回から新しく「ベンソン陽子の海外だより」を連載します。  
ベンソン塚崎陽子さんは、和田町の塚崎育生さんの長女で、現在アメリカにお住まいです。以前和田地区にも住んでおられましたので、ご存知の方も多いかと思えます。これから海外の行事や暮らしの様子などを文章や写真で紹介して頂きます。日本と異なる文化をどうぞお楽しみ下さい。

### 小学生人権標語テスト入選作品

## 思いやり みんな持ってる その心



### 館長の今月の故事・ことわざ

かどまつ めいど  
門松は冥土の  
たび いちりづか  
旅の一里塚

門松は正月を祝うめでたいものだが、門松を飾るたびに年を取って死へ近づいていくのだから、云わば、門松は死への旅の一里塚のようなものだということ。この言葉は一休禅師の作という説があり、この後に「めでたくも有り、めでたくも無し」とある。



次は

～つぬちゃんのこんなのやりましたコーナー～

3月13日（日）和田地区まちづくり委員会と和田地区自主防災会と共催で「行政懇談会」と「防災講演会」を開催しました。



「行政懇談会」では岩谷旭自治区長から「浜田市が目指す将来像」「7つのまちづくり大綱」などについてお話を伺いました。

また、「防災講演会」では弥栄自治区安城公民館主事の藤井礼子さんに「日々における防災活動」と題して日頃から行なっている防災活動についてお話を伺いました。どちらもこれから私達が関心を持っていなければならないことだと改めて感じました。



### あ と が き

3月5日（土）館長の代理で旭小学校の竣工式に行って来ました。校舎の中は事前に見せて貰っていましたが、さすが技術の進んだ現代の設備だな～！と見るものすべてに「すごいねえ！」の連発でした。これからは、和田地区の子どもだけでなく、子ども達みんなを旭の子どもとして見守っていくこととなります。新しい校舎から多くの子どもさんが巣立って行かれることなのでしょうが、旭を忘れないでいて貰う為にはどうすればいいのか、考えてみなければなりませんね。（美）